

別紙（事後評価書）

令和2年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	1	事業分野：共同制作支援事業 助成対象団体名：公益財団法人神奈川芸術文化財団
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>本事業は神奈川県立県民ホール、iichiko 総合文化センター（大分）、やまぎん県民ホール（山形）、東京二期会、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団が共同し、単独の団体では成し得ない大規模なオペラ作品「トゥーランドット」を制作し4回の公演を行った。事業を実施するにあたっての定期的な制作会議は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりリモートでの開催が中心となったが、各劇場と芸術団体が持つ専門知識や経験・ノウハウを開示・共有し、当初の役割分担に沿った効率的な進行が行われた。公演各地の合唱（児童合唱）や楽器奏者（バンダ）の出演、感染症対策の共有など、劇場運営や人材育成、プロダクションへの参加意識の醸成が図られ、共同制作の意図や役割分担など事業が適切に組み立てられたと認められた。</p> <p>（有効性）</p> <p>参加団体は当初の制作業務の役割を全うしプロダクション全体に責任を持って関わっており、協力体制の構築、劇場としての機能強化などに効果が認められた。また、公演各地の芸術団体等の出演は、参加意識の醸成にとどまらず、劇場文化の活性化にも繋がることが期待される。地域のホールが創造活動を行い、市民に還元するというシステムを構築するうえでも一定の成果があったと認められた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外出を控える風潮の中、また、座席数が制限されたにもかかわらず、入場者数は当初の目標に近い数値であり、有効性が認められた。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められた。</p> <p>また、事業費については要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画通り執行されており、適切であったと認められた。</p> <p>（創造性）</p> <p>新演出オペラ「トゥーランドット」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で来日不可能となった外国人指揮者に代わって佐藤正浩（神奈川、大分）と阪哲朗（山形）が指揮を務めた。オペラ経験が豊富な二人の指揮者はテンポや音量的にメリハリの利いた指揮で、歌手陣とオーケストラ（神奈川フィルハーモニー管弦楽団、山形交響楽団）から躍動感のある音楽を引き出し劇的な音楽的効果を創出した。ソリストは実績のある歌手と若手を交えたダブルキャストが生まれ、それぞれが持ち味を発揮して安定した演唱を行った。一部に役柄と声質の合わないキャストिंगが見られたのは少し残念だったが、合唱が存在感を示し舞台を引き締めた。</p> <p>一方、舞踊家の大島早紀子の演出・振り付けによる舞台は、中央のアクティングエリアを囲</p>		

別紙（事後評価書）

むように、奥には宮殿があり、袖幕代わりに組まれた大掛かりなイントレ内部に合唱が配され、感染症対策として舞台上の密を避けようとの工夫も見られた。また、傍観者としての群衆の姿も想像させる効果を生んだ。舞台上のソリスト、ダンサー、助演、合唱の一部に加え、宙吊りのダンサーが登場し、ソリストの心理状態をイメージさせるような動きを見せ、通常のオペラでは見られない舞台空間が生み出されたが、ソリスト陣の歌唱のテンポ感とダンサーたちの動きのテンポ感にズレを感じる場面もあり、演出的には課題を残した。

総合的には、舞台装置、衣裳、照明などの効果と相俟って、我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となることが期待できる公演であったと認められた。

（総 評）

本オペラは神奈川県立県民ホール、iichiko 総合文化センター（大分）、やまぎん県民ホール（山形）のほか実演団体を加えた6者によって共同制作され、4回の公演が実施された。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で変更を余儀なくされたところはあったものの、参加団体がお互いの持つ専門性や経験・ノウハウといったものを開示、共有することで当初の役割分担に沿った制作が実行された。

公演各地では合唱やバンドとして地元の芸術団体が出演するなど、劇場運営や人材育成面などで、劇場文化の活性化にも繋がった。地域の劇場が創造活動を行い、市民に還元するといったことも、各ホールの入場者数や入場率といった数字に表れている。複数の劇場・音楽堂等が複数の実演団体と共同制作した効果が認められた。

以上のことから、当該共同制作 プッチーニ作曲オペラ「トゥーランドット」全3幕は、妥当性、有効性、効率性、創造性において、概ね適切であったと認められた。